

ふじのくにユースネット

FUJINOKUNI YOUTHNET

編集・発行 静岡県青少年育成会議
〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号 静岡県教育委員会社会教育課内 TEL054-221-3305

Contents

P.2-3 特集

わたしの主張 2020 静岡県大会

- ・最優秀賞作文
- ・講評
- ・出場者・発表要旨

青少年育成会議 新規加入団体紹介

P.4

・Earth Communication



・浜松地区 BBS 会

令和2年度 静岡県青少年育成会議総会

(新型コロナウイルス感染症防止対策のため、書面協議で行われました。)

「全ての議案が、承認されました」

- 議案
- ・役員選任
- ・令和元年度事業報告、収支決算報告
- ・令和2年度活動テーマ、事業計画、収支予算



11月は、 INFORMATION 子供・若者育成支援強調月間です

令和2年度 子供・若者育成支援強調月間静岡県大会 in 小山町
大会テーマ「育てよう！未来を拓く有徳の人」
小山町生涯学習推進講演会
ピンチをチャンスに！
講師 東国原英夫氏 (前宮崎県知事)
令和2年11月23日(月) 19時～21時
会場：小山町総合文化ホール 大会ホール

静岡県青少年育成会議は、静岡県、静岡県教育委員会、静岡県警察本部と連携し、「地域の子供や若者のためにできること」を考え、そして実践するきっかけとなるよう、毎年県大会を開催しています。

今年度は 小山町で 開かれます。

※入場整理券の配布は終了しました。

★次年度以降の「子供・若者育成支援強調月間」及び「わたしの主張」の県大会会場、市町を募集中！共催希望のご連絡、お待ちしております！



「子供・若者を支援する 地域の力を募集中」

わたしたち NPO 法人 Earth Communication は、海・川・里山で取り組む自然体験活動や環境保全活動を通して、自然を楽しむだけでなく、自然や環境への意識を育みます。今後もわたしたちが取り組むさまざまな活動を通して、自然を楽しみ、自然を身近に感じ、より良い自然・環境が未来へとつながることを願い、持続可能な環境や社会づくりに寄与することを目的とし活動を行っていきます。



「地域の子供は、地域の大人が育てる」



「若者の未来、一緒に応援しましょう」



BBS 活動とは、Big Brothers and sisters movement の略で、兄や姉のような存在として一緒に悩み、学び、楽しむボランティア活動団体です。

★主な活動★

親元を離れて暮らす子どもたちに手作りで小物入れ & メッセージカードを作成し、お菓子を添えて贈呈しています。浜松市ボランティア連絡協議会に所属し、福祉ふれあいフェスタに参加しています。オンライン配信での紙芝居では、「いじめをなくそう」をテーマに NPO 法人魅惑的倶楽部の鈴木理事長と共にコミュニティ FM (FM Haro!76.1) で広報活動を行いました。



新会員 浜松地区BBS会

新会員 Earth Communication



静岡県青少年育成会議とは？
地域に根差した青少年の健全育成活動に取り組む団体の集まりです。各市町民会議と教育、文化、スポーツ、福祉、産業等で青少年の健全育成活動に携わる 175 の会員で構成されています。

◇会員の特典◇

- ・会員同士の連携やネットワークの構築
- ・当会議の後援名義(審査有)やロゴマークの使用
- ・各団体主催事業へ補助金を交付(審査有)
- ・内閣府や育成会議主催の研修会や講演会への参加
- ・広報紙「ユースネット」の送付 等

◇正会員 年会費 団体 3,000 円 個人 1,000 円
◇賛助会員 年会費 5,000 円(一口)

★年会費は県内の青少年健全育成事業に活用させていただきます

↓入会のお問い合わせはこちら↓

静岡県青少年育成会議事務局

◇静岡県教育委員会社会教育課内
◇静岡県静岡市葵区追手町9番6号
◇TEL:054-221-3305 ◇FAX:054-221-3362
◇e-mail:kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp

主催 静岡県教育委員会 静岡県青少年育成会議
独立行政法人国立青少年教育振興機構
後援 静岡県校長会 静岡県私学協会
静岡県PTA連絡協議会 静岡県私学保護者会

人生のかけがえのない財産について
浜松市立北浜中学校 3年 村松 グルン 良智美

「もう少し肩の力を抜いていいんだよ。」
ヒマラヤ山脈からこぼれ出る朝日が私に語りかけまし
た。
中三以前の春、家族そろって父の国、ネパールに行く
ことになりました。しかし、行って何になるのか。正直
気が進みませんでした。その頃、私は部活の先生との意
見の食い違い、人間関係、将来についてなど様々な悩み
を持っていました。何をやっても上手くいかない、人の
悪い所ばかりが目につく。そんな自分をとても情けなく
思っていたのです。しかし、そんな時母は私にこう言い
ました。
「リフレッシュも大事。ネパールでの旅はらっちのか
けがえのない財産になるはず。」
「かけがえのない財産。」その言葉は、私にとつてと
ても特別な言葉に聞こえました。するとネパールに行っ
てみたい、と思うようになりまし。私の父の実家は、ヒマラヤ山脈の標高二千メートルの
チャリス村というところにあります。首都カトマンズか
ら車で一日、さらに歩いて二日かかります。途中で宿泊
する寝床は石のように硬く、ネズミまで出ました。もち
ろん、テレビもスマホもありません。私は、改
めて日本の快適さを実感しました。
長い時間山を登り続け、疲れ果てていた私達。村の人
達はそんな私達を喜んでむかえてくれました。盛大なお
もてなしはとても心温まるものでした。
村のみんなは、とてもおおらかで親切です。何をす
るにも「ビスタリ、ビスタリ。」(ゆっくり、ゆっくり。)
と私に声をかけてくれます。日本で「早くしなさい。」
と言われ続けた私にとつて、それはとても新鮮なこと
でした。
村の子供達は、学校のあるとき以外は毎日朝から暗く
なるまでバレーボールなどをして遊んでいます。私はそ
れに加わるのがとても好きになりました。そして、その
光景を畑仕事を終えた大人達がいつも優しく見守って
くれていました。
そんな毎日の中で、ああ、スマホやゲームがなくても
楽しいことっていっぱいあるんだ、と思わずにはいら
れませんでした。遊び終わるといつも服は泥だらけ。ネパ
ールに行く前の私だったら、「泥だらけになって遊ぶなんて。」
と言うにちがひありません。日本では、家に帰るとまず
先にスマホをいじる生活だったからです。しかし、ネパ
ールでの私は泥だらけになっても幸せを感じることができ
ました。
村の人達はいつも一日の楽しみを見つけてきては、夕
食でそれは楽しそうに話します。「ロボの赤ちゃんが生
まれた。」「今年は豊作だ。」楽しい話は、みんな笑

顔にします。私は日本で夕食の時間、マイナスな話をすることが多
くあります。しかし、そんな話をするほど自分の気持ちは落ち込
んでいきます。村の人達は人の悪口などは口に出しません。楽し
く、笑顔になる話ばかりします。私は幸せの秘けつはきっとそこ
にあると思います。
夜、ヒマラヤ山脈に広がる満天の星空。本当に来てよかった、と
心から思いました。
お別れの日、私は村のおじさん達と握手をしました。ゴツゴツと
したかたい手。そこには心の豊かさ、優しさがあふれていまし
た。みんな泣いてお別れを悲しんでくれ、私の心もギュッと締めつ
けられました。
ネパールの人達は日本の私達の暮らしと真反対の日々を送って
います。しかし、ヒマラヤ山脈の壮大な景色と共に幸せに暮らして
ました。
私はネパールに行く前まで、自分のことは棚に上げ、他人のこと
を否定してばかりいました。今思うと、そこには幸せという感情は
なかったのではないかと思います。
広い視野を持って世界をながめること。きっとそこには色々な人
生の生き方があるはず。ネパールの山々が教えてくれました。
小さな人間関係にとらわれ、負の感情にさいなまれていたこれま
の自分。しかし、世界には日本の便利な生活では計りきれない事
がらがあふれています。
「知らぬこと」を知ろうとする姿勢。それが人生のかけがえの
ない財産になるのだと私は思います。幸せの価値は人それぞれ。幸
せの価値を決めるのは自分自身。私達には無限の可能性がありま
す。
人生のかけがえのない財産。「ビスタリ、ビスタリ」探してい



講評

どの発表者からも、将来の
希望や提案がなされ、中学生
らしい主張でした。
私は四つのことを発表者の
皆さんから教わりまし。
一つ目は、「新しい経験を
通して自分の中に変化が生ま
れ、前向きになること、視野
を広くもつことの大切さ」を
山田さん、村松さん、高木さ
んから教わりまし。
二つ目は、「自分を正面か
ら見つめ、自分に寄り添うこ
と、周囲の人に寄り添うこと
の大切さ」を鈴木さん、影山
さん、倉田さんから教わりま
した。
三つ目は、「現在の社会情
勢と対峙し、考え、自分がで
きることを行動に移すことの
大切さ」を相曾さん、井出さ
ん、松下さんから教わりまし
た。
四つ目は、「人は一人で生
きているのではない。たくさ
んの人たちと支え合って生き
ている。自分を大事に周囲の
人を大事にするこの大切
さ」を大森さん、土屋さん、
齋藤さんから教わりまし。
どの発表者も、自分なりの
課題を正面から受け止め、力
強く前進していこうという実
践意欲の高い発表ばかりでし
た。



寺部 晃
審査委員長

1 小さな芽から 静岡市立長田南中学校 3年 山田 莉暖
以前の私は、自分の思いをしまい込み、思っていることを表現することができませんでした。しかし、一枚のちらしをきっかけに変わり始めることができました。多くの経験をして、表現する大切さに気づくことができました。そして、今新たな挑戦をしています。

2 感謝の気持ち 清水町立清水中学校 3年 大森 陽向
突然はじまった臨時休校。今までとちがう日常が、わたしに今まで意識が向かなかった「家族」について考える時間を与えてくれました。家族からの「ありがとう」というたった5文字の言葉は、わたしの明日への原動力になっているのだと気がつきました。

3 地域の伝統文化を守る 磐田市立福田中学校 3年 相曾 俊弥
近年、少子高齢化で地域の伝統の継承が難しくなっています。僕の地域の祭典は大変歴史のあるお祭りです。僕は大好きです。地域の伝統の継承に向けて出来ることを考え、貢献していきたいと思ひます。そして、この主張を見聞きした方々が、身の回りの伝統文化を未来へ繋げてくれるとうれしいです。

4 人生のかけがえのない財産について 浜松市立北浜中学校 3年 村松 グルン 良智美
私の父の実家は、ヒマラヤ山脈の標高2000メートルのところにあるチャリス村にあります。2日かけて登ったヒマラヤ山脈に広がる壮大な景色とそこに暮らす人々の温かく優しい眼差しは、私が本当の幸せについて考えるきっかけをくれました。かけがえのない財産をゆっくり探していきます。

5 インターナショナルフレンドシップ 御殿場市立高根中学校 3年 高木 虎
ホームステイ先の学校では、文化や思想、肌の色の違う生徒が生活を共にしていましたが、そこには差別は見られませんでした。僕は、国境を越えた友情を築くためには、国や民族が違ってても、その優劣を競うのではなく、互いのよさを認め、伝統や文化を尊重することが大切だと学びました。

6 カラフルな世界を楽しむ 磐田市立城山中学校 3年 土屋 美樹
私の姉には知的障害があります。様々な壁にぶつかり、悩んだ日々の中で、障害のある人とその家族、また、そうでない人がお互いに心の壁をなくして生活できる世界について深く考えました。私は、色々な人が支え合いながら生きているカラフルなこの世界を堂々と生きていきたいです。

7 「隣人」 三島市立南中学校 3年 鈴木 さくら
この話では私がいじめに関する本でみつけた「隣人」という言葉を通して、全ての人が笑顔で過ごすことができる社会を考えます。「隣人」とは絶妙な距離を保ちながらただ隣にいる人のことです。私達の身近なものとして考えることで、普段から私達にできることを伝えます。

8 必要とされることに感謝を 焼津市立小川中学校 3年 齋藤 颯太
5月5日に来た犬のごごは、我が家の癒しです。始めに楽しいと感じていたごごの世話は、学校再開後の慌ただしさの中で面倒に思えてきました。ある日、家族が忙しい中でも世話をしている様子を見て、自分は不要なのだとショックを受けます。そこから僕は、皆から必要とされたいと思ひ始めました。

9 #平等 (#Byo Doo) 静岡市立大里中学校 3年 井出 絢芽
日本には男女格差が多くあります。私はその原因は、男性が働き、女性が家事・育児をするものだという意識だと考えました。この意識を変えるには、世界を知ること、自分の意見を発信すること、私たちが女性が堂々と活躍していくことが必要だと思ひます。

10 「頑張れ」 富士市立岩松中学校 3年 影山 実結
「頑張れ」、この言葉は、部活動の試合や体育の授業で言われると、勇気や活力がもらえる魔法の言葉です。私も、たくさん言ったり言われたりすることがありました。しかし、ある経験から、この言葉の使い方について考え直すようになりました。その真意と小さな決意を、心を込めて主張します。

11 幸せ 磐田市立城山中学校 3年 倉田 瞳
中学2年生のとき不登校となり、周りの言動と自分の心の浮き沈みの関係について深く考えるようになりました。そのことから、小さい頃からの疑問の1つ「幸せって何なんだろう」に自分の中でとことん向き合ってみました。その中で得た人との関わりと幸せについての持論を主張します。

12 彩りの海へ漕ぎ出す 浜松市立中部中学校 3年 松下 チャミリ
人は自分が日本人であることにいつ気づくのでしょうか。ハーフである私はそのことを強く意識することがあります。肌の色の違いは個性であり、誇りにもなります。私は日本人であり、バングラデシュ人です。二つの国の人間として、広く彩りのある海のような世界に漕ぎ出していきます。